

令和2年度 政経総合 (3単位) シラバス	学 年	3年(文型)
	学 科	普通科

### I 教科書

「高等学校 現代政治・経済」：清水書院

### II 副教材

『最新図説 政経』：浜島書店

『ステップアップ 政治・経済』：第一学習社

### III 学習の目標

広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

### IV 評価の観点

評価の観点	内 容
関心・意欲・態度	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考えようとする。
思考・判断	現代の政治、経済、国際関係にかかわる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断する。
資料活用の技能・表現	現代の政治、経済、国際関係にかかわる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。
知識・理解	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向をとらえる基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。

### V 授業計画

期	月	単 元	学習内容	
1	4 ～ 7	第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質 ①経済活動の基本概念 ②経済活動の主体 ③市場経済の機能と限界 ④企業の役割 ⑤経済活動の計測とGDP ⑥経済成長と景気変動 ⑦物価のうごき ⑧市場経済にいたる経済体制の変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>分業と交換に基づき、生産や消費について、どのような社会でも経済的選択の問題を解決しなければならないことを理解する。</li> <li>経済問題の解決の方法の違いによって市場経済や計画経済があることを理解する。</li> <li>家計、企業、政府が現代の経済における主要な経済主体であり、これら経済主体間の相互関係が国民経済を構成していることを理解する。</li> <li>企業は、提供された生産要素を結合して生産活動を行うことを理解する。</li> <li>市場の競争性が維持されている場合でも公共財の提供がされにくいことや、環境破壊など市場の失敗があることを理解する。</li> <li>インフレは国民の所得や富の格差を拡大すること、デフレは景気後退や不況と結びついて国民生活に影響を与えることを理解する。</li> <li>経済成長と景気変動を凶る様々な指標の特色を理解する。</li> </ul>	一学期中間範囲
		第2章 金融と財政のしくみ ①金融のしくみとはたらき ②財政のしくみとはたらき	<ul style="list-style-type: none"> <li>金融とは経済主体間の資金の融通であることを理解する。</li> <li>資金の需給は金融市場における金利の変化や、株式市場と債券市場の動向によって調節されることを理解する。</li> <li>金融市場における金利の動向が消費や貯蓄、投資行動に影響したり、物価や株価、景気の変動に大きな役割を果たしていることを理解する。</li> <li>金融業務の自由化や金利の自由化に伴う金融に関する経済環境の変化による国民経済や家計や企業に向けての影響について理解する。</li> <li>現代経済における有効需要政策の意味と役割及びその問題点について理解する。</li> <li>財政政策は、投入された費用に対してそれから得られた効果を比較しながら最適な政策を選択していく必要があることを理解させる。</li> <li>財政は国だけでなく地方公共団体も行っていることに気付き、両者の役割分担や連携の在り方について考える。</li> </ul>	一学期期末範囲

2	9 ~ 12	<p>第3章 日本経済のあゆみと現状</p> <p>①戦後復興と高度成長 ②石油危機とバブル経済 ③バブル崩壊と失われた20年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復興期と高度経済成長期の日本経済の特徴について理解する。</li> <li>・石油危機とバブル経済期の日本経済の特徴について理解する。</li> <li>・バブル崩壊と失われた20年の日本経済の特徴について理解する。</li> </ul>	二学期中間範囲
		<p>第4章 福祉の向上と日本経済の課題</p> <p>①労働基本権と労働運動 ②今日の雇用問題と労働条件 ③社会保障の成立と進展 ④中小企業の現状と問題 ⑤環境をめぐる問題 ⑥消費者をめぐる問題 ⑦農業をめぐる問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の労使関係の特色や、勤労の権利と義務、労働基本権の保障、労働条件の改善、労働組合の役割について理解する。</li> <li>・医療や年金といった社会保障費の財政負担が大きな問題となっていることを日本の社会保障制度の歩みや特色も含めながら理解する。</li> <li>・中小企業にはベンチャー企業のように経済的に大きな役割を果たしているものがある一方で、下請けとして大企業との間には是正すべき格差社会が存在しているということを理解する。</li> <li>・市場経済においては市場の失敗として環境破壊があることを、外部不経済の視点から理解する。</li> <li>・消費者についての問題としては、情報の非対称性の観点から家計・企業・政府間の情報格差について理解する。</li> <li>・農業問題としては、日本の食料自給率が他の先進国とくらべて低く、日本の農業の体質強化が課題とされていることを理解する。</li> </ul>	
		<p>第7章 国際政治と日本</p> <p>①国際社会の形成と国際法 ②国際連合と国際協力 ③国際政治の動向 ④核兵器と軍備管理・軍備縮小 ⑤国際社会における日本</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェストファリア・システムを理解する。</li> <li>・国際法の基本的なしくみについて理解する。</li> <li>・国際法に関しては統一的な立法機関はなく、国際司法裁判所にも強制力が十分には機能しないことを理解する。</li> <li>・国際連合をはじめとした国際機構の意義や役割を理解する。あわせて、NGOや多国籍企業が国際政治に影響を与えていることも理解する。</li> <li>・国際政治の動向として、冷戦後の動向について理解する。</li> <li>・日本の安全保障と防衛について理解を深める。</li> <li>・国家間の対立を解消するためには調整し協調することが必要であることを理解する。</li> </ul>	
		<p>第5章 世界経済と日本</p> <p>①国際分業と貿易の利益 ②外国為替と国際収支のしくみ ③グローバル化の進展と国際経済 ④アジア経済と南北問題 ⑤環境と人口・地球の持続可能性をめぐる問題 ⑥国際経済における日本の役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較優位の考え方について理解させ、自由貿易論と保護貿易論とを対比させながら、現代の貿易問題と関連させて理解する。</li> <li>・対外経済取引に伴い通貨間の売買が必要になることを理解する。その際、本国通貨と外国通貨の需給関係から為替レートが決まる変動相場制が採用されており、財やサービス、資本の出入りや物価水準、金利差など様々な要因が相場に影響を与えていることを理解する。</li> <li>・国際収支統計の基本的な構成と、日本の対外経済取引の現状について理解する。</li> <li>・世界貿易機関や国際通貨基金などの国際経済機関が果たす役割や課題について理解する。</li> <li>・持続可能な社会を形成するための政策について理解する。</li> <li>・新興工業国経済について特徴課題について理解する。</li> <li>・国際経済の安定のために日本が果たすべき役割にはどのようなものがあるのかを考察する。</li> </ul>	
3	1 ~ 2	<p>第3編 現代社会の諸課題第1章 現代日本の政治や経済の諸課題</p> <p>①18歳選挙権から考える政治とはなにか？ ②社会保障制度は維持可能か？ ③地域共同体は変貌する地域社会に対応できるか？ ④働くとはどういうことなのか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選挙の意義と投票する意味を理解する。</li> <li>・終身雇用制や年功序列型賃金体系、労使協調などにより雇用の安定を確保するという考え方と、規制緩和による就業形態の多様化、成果主義に基づく賃金体系、労使の新しい関係などにより労働力を効率的に活用するという考え方を対照させて今後の日本の雇用や労働政策の在り方について探求する。</li> <li>・今日では地方分権改革が推進されると共に様々な議論があることや、地域の政治や経済の動きが住民の生活だけにとどまらず国際的な政治や経済に深く関わっていることを理解する。</li> <li>・地域社会の発展と住民生活の向上について、国と地方公共団体の関係の在り方について探求する。</li> <li>・派遣労働者やパートタイマーといった非正規労働者、女性や若年者、高齢者、障害者の雇用や労働問題、失業問題、外国人労働者問題といった事例を探求する。</li> </ul>	二学期期末範囲

3	1	<p>⑤日本は格差のある社会なのか？</p> <p>⑥グローバル化する中小企業は世界で勝てるか？</p> <p>⑦日本の農業に未来はあるか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の大企業と中小企業の関係や中小企業の役割などについて調べ、大企業との格差を是正し中小企業の自立を支援する政策について探求する。</li> <li>・経済のグローバル化や国際競争の激化といった状況が見られる中、中小企業の在り方について経済の安定化のために政府による保護育成の立場と、規制緩和をさらにすすめる自由化の立場を対照させて探求する。</li> <li>・農業における生産、流通、貿易を自由化する考え方と、農業を保護するための政策を推進する考え方を対照させ、食料生産の効率化と食料の安定供給や安全性確保といった視点で探求する。</li> </ul>
	2	<p>第2章 国際社会の政治や経済の諸課題</p> <p>⑧リスクのある社会とは？</p> <p>⑨パリ協定で世界の温暖化対策はすすむのか？</p> <p>⑩「援助」は途上国のためになっているか？</p> <p>⑪人種・民族問題に解決はあるか？</p> <p>⑫国際社会における今の日本の役割とは？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の国際社会の課題は、従来の政治や経済の枠組みを超えたものが多く、しかも複雑化していることを理解した上で、リスクある社会について探求する。</li> <li>・地球環境の保全を優先する考え方と、生活水準の向上を目指す経済発展を優先する考え方を対照させて、持続可能な開発という視点から探求する。</li> <li>・国際経済格差の是正について、先進国や国際機関による経済援助を中心とする考え方と発展途上国の自助努力を中心とする考え方を対照させて、発展途上国の経済的な自立と持続可能な発展と先進国の協力のあり方について探求する。</li> <li>・少数民族の分離・独立という考え方と、多数民族との共生という考え方を対照させて、人種・民族間の対立と共存という視点から探求する。</li> <li>・国益の追求と、人類共通の利益の追求とを対照させて、日本が世界の国々にどのような役割を果たすことができるのかを探求する。</li> </ul>